



門二
號4278
卷1

島川
藏書

本朝算鑑童蒙知津序

傳曰如行遠必自邇如登高必自卑此道

脩道之有漸藝術亦然也豈有舍近及遠

之理哉安永子所著算鑑童蒙知津自

民生日用之算以至角率約術之解備

記之從近而遠從卑而高引而進之知

津之名其不虛矣歟安永子蓋甲州之

人予固不及相識水玉堂主人欲刻之
来示予且請之序予亦欣同好之學弘
世也不辭而書其端爾

文政庚辰嘉平月

平安 濤山 小寫好謙識



甲陽算鑑童蒙知津自序

曩者甲陽軍鑑有テ國風治亂ヲ辨テ曰抑
甲斐國者武田家二十餘代之領國ニメ國
政他ニ異ナリ尚

御

治國後武田ノ舊政三ヶ條ヲ御許容アル
貢ヲ収ムルニ大小切ノ法金銀貨錢二甲
金ノ法量數ニ三升拵ノ法有リ然ラバ則
チ算法モ亦他ニ異ナラザル丁ヲ得ズ予
幼ヨリ算法ヲ好ミ市瀬慎齋先生ノ門ニ

入テ天生術ノ一法ヲ受ケ精勤以テ算法
ノ幽微ヲ盡シ二十餘年一日ノ如シ今當
國ニ遊歴メ井上昌倫ガ著ス所ノ峽算須
知ヲ得テ以テ峽算ヲ試ムルニ其書或ハ
迂遠ニメ整數十ク邪術半ニ過タリ豈初
學ヲ惑スノ甚シキニ非ズヤ是他ナシ其
力ノ足ガルヲ以テナリ於^レ是^ニ乎予考ル所
有テ一書ヲ編以テ門人ニ授ケ其進退ヲ
試ムルニ峽算ノ理明ク諸ヲ掌上ニ見ガ

如シ一日門人等來テ予ニ謂テ曰先生ヨ
リ受持スル所口ノ算法簡易ニメ頗ブル
知易ク誠ニ古ノ蜘蛛ノ導引メ野馬臺ノ
詩ヲ讀セタルガ如シ何ゾカ、ル良法ヲ
唯社中ニノミ私ニ為ンヤ早ク之ヲ梓ニ
鐫テ世ニ公ニシ博ク同志者ヲ導引セシ
予固ク辞スレ^レ得ズ巳ム^レヲ得ズメ小
術三卷ヲ編撰シ名テ甲陽算鑑童蒙知津
ト云蓋數術ナル者ハ其理測リ盡スベカ

ラズ若シ未ダ盡サヅル所口ノ者アラバ
 更ニ後學ノ知考ヲ俟ツト云爾
 文化十三年丙子孟春於_二甲陽石和驛旅館_一
 江戸格齋居士安永橘惟正之供撰



藍庭林信書



本朝算鑑童蒙知津卷之天

安永傳語惟正編撰

算鑑卷之天目錄

算法用字	初丁	大小數位附様	二丁
度量衡名目	三丁	諸品定率	四丁
金銀錢兩替	十五丁	米併石物類	十四丁
杉形算	十八丁	呉服類	十九丁
呉服鯨曲尺	十九丁	塩醬油酒水油	二十丁
茶紙類	二十二丁	利足勘定	二十二丁
材木勘定	二十八丁	的矢數知事	三十丁

算術用字凡例

商 <small>とく</small>	割てあつらひと数と	實 <small>とく</small>	割るべき数と
法 <small>とく</small>	俗あつらひ 同安の事あり	歸 <small>とく</small>	一桁めて割る事と
除 <small>とく</small>	二桁以上よめて割る 事と	因 <small>とく</small>	一桁めて掛る事と
乘 <small>とく</small>	二桁以上よめて掛る 事と	自因 <small>とく</small>	同数を掛け合す 事と
自乘 <small>とく</small>	同数を掛けあつす 事と	自之 <small>とく</small>	同数を掛けあつす 事の畧語あり
相乘 <small>とく</small>	別の数と掛け合す ことと	再自乘 <small>とく</small>	同数を二度掛け あつす事と
折半 <small>とく</small>	二つふ割る事と云	半 <small>とく</small>	二つふ割る事と
和 <small>とく</small>	合さる事と	加 <small>とく</small>	有数へ又入る事と
減 <small>とく</small>	引く事と	去 <small>とく</small>	引る事と云
倍 <small>とく</small>	一と二ふさるころ あり	積 <small>とく</small>	長平掛け合す数と なり乃歩の事

零 <small>とく</small>	一桁間のあく事と	不盡 <small>とく</small>	割り余る数と
有奇 <small>とく</small>	是も割るあまらる 数と	冪 <small>とく</small>	同数を掛け合す 数と
弁 <small>とく</small>	べきの畧字あり	巾 <small>とく</small>	弁の畧字あり
奇數 <small>とく</small>	一三五七九の事 乃陽あり	偶數 <small>とく</small>	二四六八十の事 乃陰あり

大數名目	一	十	百	千	万	億	兆	京	垓	秭
	穰	溝	澗	正	載	極	恒	河沙	阿僧祇	
	那由他	不可思議	無量							

評曰大數の位附あり小大乗中乗小乗と三件あり然るに
ども當時用るころハ大乗あり其大乗の位附あり左の
ころ

衡數名目 秤之事

斤 之四十兩 兩 之四分 分 之四朱 銖 之四黍 黍 起 衡之

許曰衡數斤より以上八大數の位を用ひ乃一斤の目品不因く事替る大畧左のごとく

金一兩者重目三匁六分 甲金一兩者重目四匁

銀一兩者重目四匁三分 銀一枚者重目四十三匁

藥種一兩者重目四匁 藥種一匁者百目

唐目一斤者一百六十目 大和目一斤者一百八十目

大目一斤者二百目 沉香目一斤者二百十匁

白目一斤者二百三十目 山目一斤者二百五十匁

右の如く一斤ふ七品あり 品に因て用ひ

産數名目 田畑之事

町 古六十間四方 今 横六十間
反 古三百六十步 今三百步
畝 古三十六步 今三十步

步 一間 四方
分 長六尺 横六寸
釐 長六寸 横六寸

許曰産數ハ町より以上八大數の位を用ひ又厘より以下ハ小數の位を用ひるなり

坪數定法

京間 六尺五寸 尺坪法 四十二步二分五厘 寸坪法 四千二百二十五步

中間 六尺三寸 尺坪法 三十九步六分九厘 寸坪法 三千九百六十九步

田舎間 六尺 尺坪法 三十六步 寸坪法 三千六百步

許曰尺坪の定法ハ假如六尺を掛け合はるとして六六の三十六坪あり故に三十六歩を田舎間の定法とせ故に寸坪の法は三千六百歩と知る他これ小儀

京枘

口徑四寸九分四方
深二寸七分
尺立坪法六釐四毛八糸二忽七微
寸立坪法六十四坪八分二厘七毛

土一升

六尺四方
六面
尺立坪法二百十六坪

土五合

口徑六尺四方
深三尺
尺立坪法百〇八坪

土二合五勺

口徑六尺四方
深一尺五寸
尺立坪法五十四坪

評曰京枘の定法ハ口徑四寸九分と掛け合せ是ハ深二寸七分と掛け合せ又土一升の定法ハ六尺と再び掛け合せと知る事と土五合の定法ハ口徑六尺と掛け合せハ深三尺と掛け合せ又土二合五勺の定法ハ六尺と掛け合せハ深一尺五寸と掛け合せ知る事

蛇籠一本

差渡一尺七寸
長五間
尺坪法六十八坪四分九三
土枘法三合一勺七

評曰尺坪の定法ハ差渡一尺七寸と掛け合せ是ハ長と掛け又六尺及び四法七分九厘と掛け尺坪の定法と尺又

土枘の定法を見ざるは是ハ得る事と其の尺坪を置二百十六と割ると尾数を棄てて三合一勺七と得る又曰四法七分九厘は良法なりと云ふは然る事と古より普請方中は此法を用ひ來るゆゑハ普請方中是法を用ひたりと云ふ法真率ハ后小記也

中枘

内法
高四尺四寸
横八尺四寸
長一丈一尺四寸

同尺坪法 四百二十一坪三分四厘四毛

同土枘法 一坪九合

評曰高四尺四寸ハ横八尺四寸と掛け又これハ一丈一尺四寸と掛け尺坪を得るこれすなり尺坪の定法とす又土枘の法を見るは是ハ二百十六と掛け前ハ得る尺坪を割ると尾数を棄てて一坪九合を得るこれすなり土枘の定法なり

二間枘

内法
高五尺
横九尺
長二間
尺坪法五百四十坪
土枘法二坪五合

評曰高五尺ハ横九尺と掛け又これハ長二間と掛け又六尺と掛け尺坪を得るこれ即ち尺坪の定法とす

又土枘の定法を見らふ高五尺へ横九尺と掛け又
是れ長二間と掛け是れ三十六あて割り二坪五分
得るこゝ即ち土枘の定法とす此余枘あつて多
くと示すの記しをらんやまふ故ふ只一二と場けく其意

永錢金切上法

永錢六十二文五分者	一朱	同	百二十五文者	二朱	
同	二百五十文ハ	一步	同	三百七十五文ハ	一步二朱
同	五百文ハ	二步	同	六百二十五文ハ	二步二朱
同	七百五十文ハ	三步	同	八百七十五文ハ	三步二朱
同	一貫文ハ	一兩	同	十貫文ハ	十兩

詳曰永錢ハ何程ありとも此意あり知るべし

内外増減之法

二割引内ハ八分を掛るなり外の二割ハ十二あて割る

二割増外者十二と掛るあり内ハ八あて割ると知るべし

諸物輕重

金	一寸四方 六面	百四十六匁	銀	一寸四方 六面	百十七匁
鈔	同	八十匁	銅	同	六十三匁
鉄	同	六十匁	銑	同	五十匁
錫	同	五十三匁	唐銅	同	六十六匁
真鍮	同	五十八匁	青石	同	二十五匁
檜	同	三匁五分	栗	同	十二匁五分
栗石	一尺四方 六面	十二貫六百目	土	一尺四方 六面	十貫七百六十匁
砂	同	十貫四百目	水	同	七貫四百目

詳曰諸物輕重ハ国所不因而善悪あり故に輕重各別
あり能くたや用ゆべし

金銀錢兩替之部

今文金八十兩有此文銀何程と問

但文金一兩者
銀相場六十文

答曰文銀四貫八百目

今甲金八十兩有此甲銀何程と問

但甲金一兩者
銀相場四十八文

答曰甲銀三貫八百四十文

今丁銀八十枚有此銀何程と問

但丁銀一枚者
銀四十三文

答曰銀三貫四百四十文

今甲金八十兩有一兩錢七貫二百文替ふて此錢何程と問

答曰錢五百七十六貫文

術曰有る所の八十と置相場と掛けと知る

二詳曰右術意ハ假如八十兩と置六十文と掛け文銀と得る
乃外三ヶ條共不同意也是より以下甲金及び文金共ハ

銀相場と記せば文金ハ国風不因て銀相場等ハ然れ共
東都及び當国ハ銀六十文と定む故あり

今文銀四貫八百目有此文金何程と問

答曰文金八十兩

今甲銀三貫八百四十目有此甲金何程と問

答曰甲金八十兩

今丁銀三貫四百四十文有此丁銀何程と問

答曰丁銀八十枚

今錢五百七十六貫文有此甲金何程と問

但甲金一兩者
七貫二百文替中

答曰甲金八十兩

術曰相場と以て有銀及び錢を割り知り

詳曰右術意ハ假如文銀四貫八百目置六十文を以て割り
文金を知る外三ヶ條共不同意あり

今文銀一匁五分錢百十一文六分の時文一兩錢何程と問
 答曰文一兩錢六貫七百二十四文
 術曰一匁の錢百十一文六分を墨百文の目四文引百七文六分と成へ六十匁を掛け百より上六九六を以て割文金一兩の錢六貫七百二十四文と得る

許曰右の如く文金一兩の錢と見るに別術あり其術言一匁の錢百十一文六分と墨百文の目四文引百七文六分と成と定法十文を以て割文一匁の錢六貫七百二十四文と知る又甲金一匁の錢と見るに別術あり前の如く甲一匁の錢百五十五文と墨百文の目四文引百四十六文と成へ四十八匁を掛け百より上六九六を以て割甲一兩錢七貫三百文と知る然れども甲金六金一兩錢相場百文以下なり乃七貫二百文又七貫百文と云か如く又文金六兩の錢相場に端あり乃六貫七百廿四文と云貫八百十二文と云が如く故本本文に載る所の術意尤よ

今金一兩錢七貫三百文而金二朱分錢何程と問
 答曰金二朱錢九百十二文

術曰金一兩錢七貫三百文を置八を以て割百より下九六を掛けと得る
 今金一兩錢七貫三百文替ふして金一步錢何程と問
 答曰金一步錢一貫八百二十四文
 術曰金一兩の錢七貫三百文を墨四を以て割百より下九六を掛けて得る
 今金一兩錢七貫三百文替ふして金二歩二朱錢何程と問
 答曰金二歩二朱錢四貫五百六十文
 術曰金一兩錢七貫三百文を墨五を掛け八を以て割百より下九六を掛けて得る

許曰前の如く金二朱分八まで割一步八四まで割二歩の八皆畧術あり然れども一兩以下の錢を見るに此術より如何と云を

附録

今錢六
百六十
三文有
甲一兩
錢七貫
百文替
此銀何
程と問
答曰
銀四匁
五分
術曰六
六十三
と置百
と下六
五と掛
又百
上あ
八と掛
三一九
と成申

金ハ次第に四分の一なり故一兩を四つて割り一匁の錢を得る又
一歩と四つて二朱を得る故二朱ハ八と用由又金一歩及二朱の
錢と見る本術曰金一歩永二百五十五文を置一兩の錢を掛けて一歩の錢
を知る又金二朱の永百二十五文を置金二兩の錢を掛けて二朱の錢
を知れども此術ハ永錢を用ゆる故初学の者ハ取極むに苦む故本文
の如く畧術より又永を見るは良術あり假如ハ金一歩の永錢と
見るは一歩と置四つて割り永錢二百五十五文と知る又二朱の永錢と
見るは一歩と置四つて割り永錢一百二十五文と知る他はこれより
又一兩以上の錢を見る術ハ假如ハ金一兩錢相場七貫三百文替
の時二兩一歩二朱の錢何程と問と答ハ先實之二兩一歩二朱と置
一歩二朱計四つて割り總永二貫三百七十五文と成一兩の相場
七貫三百文を掛け二兩一歩二朱の錢十七貫三百三十文と知る
百より下ハ九六を掛け得る又何も二兩より以下ハ永錢より
用由又曰永錢より一匁を置八匁と置き八匁より割り及をばり
此の時八歩と置き四つて割り永錢より用ゆる

答曰甲銀三匁分錢四百四十八文

術曰銀三匁を倍めて一兩の相場七貫二百文を掛け

今甲金一兩錢七貫二百文の時甲銀三匁分錢何程と問

百文より四文目を出して得る

今文金一兩錢六貫八百文の時文銀五匁七分錢何程と問

答曰文銀五匁七分錢六百四十四文一六

術曰五匁七分を置一兩相場六貫八百文を掛け六十匁

めく割百文より下へ九六を掛けて得る

詳曰文金者錢相場場とあると云ふ端と云ふ九六めく割り而
后本文の如くして得る又甲金の錢を見るは別術あり其術曰
金一兩の錢相場と置き好むの銀を掛け四十八匁めて割り百
より下へ九六を掛け好むの錢を得る

今甲銀一匁分錢百四十六文の時甲銀四匁五分小錢何

程と問 答曰甲銀四匁五分錢六百六十三文

術曰百四十六文を置百より四文目を引百四十二文と成

と四匁五匁掛百文より四文目を出して得る

一兩の錢
七貫百文
少て割り
銀四文五
分と知る
詩曰
百より下
不用五
八甲一兩
の銀四十
八文と九
六文と割
五と得る
あり
又百より
上の四八
八甲一兩
の銀相場
四十八文
あり

算術子

評曰是術ハ文金とて同意あり故ハ文金の錢と見ら者ハ
累之只好まの銀一文の錢を掛るもの

今錢二貫七百文有是と甲金小替時甲銀一文あり
錢百四十八文の相場ありて此甲金何程と問

答曰 甲銀十八文
甲金一步二朱

術曰百四十八文を置四十八文斗九六ありて割百五十文
と成を以て二貫七百文を割甲銀十八文と得る

今錢二貫八百三十七文有是と文金に替時銀一文あり
錢百十三文の相場ありて此文金何程と問

答曰 文銀二十五文
文金一步二朱銀二文五分

術曰二貫八百三十七文を置二貫八百斗へ九六を掛け
丁二貫七百二十五文と成を實とて別ハ百十三文と

置百より四文目を引丁百九文と成を以て實を割る
文銀二十五文と得る

評曰右の如く一文の錢を以て銀と見る術ハ甲をても文を
も替る事あり然るども有錢百文以下ある無きに因て九六
の掛け割り異あり前條二件の術意に因て盡とて一乃金を
見る術の前記と故ハ累之

今甲金十一兩一分有り是と文金小替時兩替九兩
ありて文金何程と問

答曰文金十二兩二步

術曰兩替九兩を以て甲金を割永と成と金に上げ得る

今甲金百七十一兩一步有是と文金小替時兩替八
兩二步と銀三文ありて文金何程と問

答曰文金二百兩

術曰四十八文と以て三文と割り永六十二文五分と
得是ふ八兩二歩と加へ永八貫五百六十二文五分と成
と以て百七十一兩一歩と割り文金二百兩と知る

評曰兩替を以て甲金を割り得るところの商を金に切上げ
り端ありき其端を文銀に見る六十目掛ける
えはここのところありき不直に錢に見るその術意ハ
次に記す

今甲金十五兩有是と文金ふ替る時兩替八兩二歩ふ
して文金何程と問 但金一兩錢相場
七貫二百文を用ゆ

答曰文金十七兩二歩二朱ト

錢百三十三文六分

術曰甲十五兩と置兩替八兩二分と以て五桁割
るべ文永十七貫六百四十七文と不盡〇五と成と

十七貫六百二十五文の金十七兩二歩二朱とまり上げ
残り文永二十二文と不盡〇五と成是の二十二文斗へ
兩替八兩二歩を掛け甲永十八文七分五厘と得て景
一兩の錢相場七貫二百文と掛け錢百三十五文と成
是の三十五文斗へ九分と掛け文金十七兩二歩二
朱と錢百三十三文六分と得る

評曰此の條は如く不居あるゆゑハ金の多少ふよつと
割る術ハ規矩あり其解ハ曰先兩替を以て有る甲金
を割るときに其高永一文と割り止と其故如何と
ある先永と金ふ切上げに永一貫八金一兩二百五十は
金一分百二十五文ハ金二朱あるが故ふ一文より以下ハ割ら
ざに其手前術の如くして端錢を得る

今文金十二兩二歩有是と甲金に替る時兩替九兩
ふして甲金何程と問

術曰有る文金を置き兩替九兩と掛け甲金を得る

術曰有る文金を置き兩替九兩と掛け甲金を得る

許曰文金有る甲金に替るの此の條の如く文金を置き兩替九兩と掛け甲金を得るの端あるは文金と置き兩替九兩と掛け甲金を得るを金に切り上げると右の業は全く右條の如く故に只一件を記すのみ

今兩替九兩の時八文金一兩少付甲銀何程と問

答曰文金一兩少付甲銀四十三文二分

術曰兩替九兩と置き四十八文を掛けて得る

今兩替九兩甲金一兩錢相場七貫四百文の時八文金

一兩少付錢何程と問

答曰文金一兩少付錢六貫六百五十七文六分

術曰兩替九兩と置き七貫四百文を掛け百文より下ハ

九六と掛け文金一兩の錢を得る

今兩替九兩三文の時八文金一兩少付甲銀何程と問

答曰文金一兩甲銀四十三文五分

術曰兩替九兩少四十八文を掛け是ふ三文を加へ文一兩の甲銀四十三文五分を得る

今兩替九兩三文の時八文金一兩少付せに何程と問

但甲一兩錢相場七貫四百文

答曰文金一兩錢六貫七百〇六文

術曰四十八文を以て三文を割甲銀六十二文五分を得是ふ九兩を加へ共ふ永九貫〇六十二文五分と成へ錢相場七貫四百文を掛け百より下ハ九六を掛け知る

許曰右四ヶ條の答術ハ皆十兩分の銀及錢あり故小右得る
知の數ハ皆十除して一兩分の銀及錢と得るあり然れども俗
家少てハ手早きを專一とて故小右の如く十除と省き用ゆ算
家ハ十除せざれば位中合は

今甲銀三百二十六匁四分有是と文金小替る時兩替
八兩ありて此文金何程と問

答曰文金八兩二歩

術曰前の術意ありて文金一兩の甲銀三十八匁四分と
得る以て甲銀三百二十六匁四分と割り文金を得る

許曰兩替ありゆりのハ諸相場割の本たり故事多くして初学
者ハ甚苦む然れども右小載るるるの術意を會得る
と云ふ余ハ隨て得るに在甲金兩替九兩ありゆりの文金甲
金と云ふ平均と云如何と云ふに文金一兩の重目ハ三匁
六分甲金一兩の重目ハ四匁あり然るると云ふ甲金九兩
ハ重目三十六匁又文金十兩も重目三十六匁あり
然れば兩替九兩あり各適等あり

米俣石物之部

今米大拵一斗三升入八俵有此京拵何程と問

但大拵者京拵三升入也

答曰京拵三石一斗二升

術曰一斗三升と置三升と掛け京拵三斗九升と得て
是と八俵へ掛けて得る

今初大拵五石五斗有大拵二斗二升俵ありて俵數何程と問

答曰俵數二十五俵

術曰五石五斗と置二斗二升ありて割俵數と得る

今米大拵一斗三升入二十六俵有甲金一兩小大拵四斗
替ありて是の代金何程と問

答曰代金甲八兩一歩二朱甲銀三匁六分

術曰二十六俵を置一斗三升を掛け石數三石三斗八升と得く四斗を以て割永と成を金ふ切上げ残り四十
八匁を掛け代金を得る

今甲金十兩少付初四十俵替の時但大枡二斗二升入五合摺あして甲金一兩少付米大枡何斗に當ると問

答曰甲金一兩米四斗四升

術曰四十俵を置二斗二升を掛け又五合を掛け十兩あて割大枡四斗四升と知る

今甲金一兩少付大枡三斗九升替の時甲十兩少付大枡一斗三升俵何俵ふ當ると問

答曰甲十兩少付三十俵

術曰十兩と置二斗九升を掛け一斗三升あて割知る

今玄米一俵但大枡一斗三升入是を白米ふると時春減内一割引あて京枡あく白米何程と問

答曰白米京枡三斗五升一合

術曰大枡一斗三升置三升を掛け又内一割引法九分を掛け白米三斗五升一合を得る

今玄米三十石白米あして二十五石二斗あり何分の春減と問 答曰春減一割六分

術曰三十石を置内二十五石二斗を引余りを三十石を以て割春減一割六分を知る

今白米甲一兩大枡三斗二升替の時甲一匁五分の大枡

何程と問 答曰甲一匁五分小大拵一升

術曰三斗二升と置一匁五分を掛け四八めて割得る

今江戸也て文金一兩小米八斗替の時一匁の代銀何程と問

答曰一石代銀七十五匁

術曰一石を置六十匁と掛け八斗を以て割て知る

今大坂也て米一石小付銀七十五匁の時銀六十三匁の

相場也て金一兩小米何程と問

答曰金一兩小付米八斗四升

術曰七十五匁を以て銀相場を割一兩の米を得る

評曰江戸也て金一兩小米何斗何升と云ふ大坂也て米一石小付銀何十何匁と云ふ故他国の引合を見るべきは右二ヶ條の術意小因く得べし又江戸相場の金一兩の銀相場を記せば是れ江戸也て金一兩の銀相場六

十匁と定る故小あるは又大坂也て銀相場より下り有て定まらず故小銀の相場を記す

今小豆六斗の代と小麥一石の代と同断あり小麦

九石の代り小豆何程と問

答曰小豆五石四斗

術曰小麦九石と置小麦六斗を掛け一石也て割知る

今大豆一艘の代甲八兩替也て大豆十八俵の代金

何程と問 但大豆一俵者大拵一斗四升入又一艘者二十四俵也

答曰十八俵代甲金六兩

術曰八兩と置十八俵を掛け二十四俵也て割知る

今大豆一艘の代甲八兩替也て甲一兩小何斗小當ると問

答曰甲一兩大拵四斗二升 但大豆一拵也

術曰一艘の俵数二十四を置一俵の入一斗四升を掛け三石三斗六升を得て八兩を以て割甲一兩の掛数を得る

今御藏前相場京拵三斗五升入百俵少付文金四十兩の時文金一兩少京拵何斗不當ると問

答曰文金一兩少付京拵八斗七升五合

術曰百俵と置三斗五升を掛け四十兩少て割知る

今御藏前相場三斗五升入百俵少付三十八兩二歩替の時三斗九升俵二百五十俵代金何程と問

答曰文金百〇七兩一歩

術曰二百五十俵と置三斗九升を掛け又三十八兩二歩を掛け倍あして七めて割代金を得る

詳曰御藏前相場ハ文金也又拵ハ京拵也故前前の如くす
そのハ納金不用ゆ術よりと一永錢不端あることハ
六十兩を掛け文銀不すなり又右の相場を甲金及大拵
の門す術意ハ決不記と

今御藏前相場京拵三斗五升入百俵少付文金四十兩の時甲金一兩少付大拵何斗不當ると問但兩替八

答曰甲金一兩大拵三斗六升四合五八余

術曰百俵と置三斗五升を掛け實と以別不四十兩を置兩替八兩を掛け又三升を掛け法と一以て實を割知る

今御藏前相場三斗五升入百俵少付三十八兩二歩替の時兩替八兩あして三斗九升入二百五十俵代甲金あして甲金何程と問

答曰甲金八十五兩三歩ト甲銀二匁四分

術曰二百五十俵と置三斗九升を掛け又三十八兩二歩を掛け又是小兩替八兩を倍ゆして十六兩と成を掛け七少く割永と成を金小切上り残りへ四十八匁と掛け代金甲八十五兩三分と銀二匁四分を得る

評曰此術直ぐに甲金を得る術あり又倍ゆは前術の如くして文金を得て后兩替を掛け甲金を得るもより又御中七少く割る解小曰假如二百五十俵を置三斗九升を掛け九十七石五斗を得る是に御相場の三十八兩二歩を掛け三十五石少く割り代金を得るあり然し是も初学の者ハ一折少く割り掛けざるをよし故に倍ゆは是の石九十七石五斗を置御相場を掛け是代倍にして實は別小三十五石を倍ゆして七十石とあり法とく此の如く以て實を割り代金を得るありすは七の起り此の如し

今甲一兩小四斗替の米一石二斗五升有此代金甲三兩錢九百匁也錢相場何程と問

答曰甲金一兩錢相場七貫二百匁

術曰四斗を以て一石二斗五升を割永三貫百二十五匁と得る是の内三兩分の永三貫文引残永百二十五匁と成を以て錢九百匁を割一兩の錢相場を得る

今米麥大豆三色の石數合して九石六斗有然るも此内米代銀四百匁麥代銀二百五十匁大豆代銀百五十匁也各石數何程と問

答曰 米 四石八斗
麥 三石
大豆 一石八斗

術曰各代銀合八百匁と成を以て九石六斗と割十二箇を得て是小米代を掛け米石と成又十二箇は麥代を掛け

麦石と云ふ又十二箇大豆代を掛け大豆石と云ふ

今圖の如く米杉形不積置有下並八俵止り一俵中して俵數何程と問

答曰總俵數三十六俵

術曰八俵と左右に置右に一俵加へ左り俵掛け二つ不割總俵數を知

今圖の如く米袴腰形不積置有下並八俵止り三俵中して總俵數何程と問

答曰總俵數三十三俵

術曰八俵と左右に置右に三俵加へ左りの内二俵引右に掛け折半して俵數を知



くせ



くせ

呉服木綿類之部

今一反二丈五尺の木綿銀六匁小買時一尺の代銀何程と問

答曰一尺代銀二分四釐

術曰六匁を置四を掛け一尺の代銀を知

評曰此術者六匁を置二丈五尺めて割り一尺の代を得る然るるもろに前の如く四を掛るのハ假如ハ一を置四を割るもろに二五とある故に二五小割るのハ四を掛てより乃何ゆても一を置五とあるの數を以て割るとき端をさすのハ前の如く用ゆ其大畧左の如し

今二を以て割るとき六五を掛けより

今二五を以て割るとき八四を掛けより

今一五を以て割るとき八八を掛けより

今六二五を以て割るとき八四を二度掛けより

今曲尺六尺有呉服尺小直して何程と問 但呉服差一尺者曲尺一尺二寸也

答曰呉服尺五尺

術曰六尺と置一尺二寸少て割吳服尺を得る。

今曲尺二丈五尺有鯨尺小直して何程と問但鯨尺一尺八曲尺一尺二寸五分也

答曰鯨尺二丈

術曰二丈五尺を置一尺二寸五分少て割鯨尺を得る

今曲尺二丈五尺代銀五匁の時鯨尺一尺の代銀何程と問 答曰鯨尺一尺代銀二分五厘

術曰二丈五尺を以て五匁を割一尺二寸五分を掛け知る

今絹一疋重目百二十目有糸目五十目少付銀二十匁替少て絹三疋の代銀何程と問

答曰絹三疋代銀百四十四匁

術曰三疋を置百二十匁を掛け又二十匁を掛け五十

匁少て割絹三疋代銀を得る

今綿甲金一両少付十八斤替少て綿四斤半代甲何程と問 答曰四斤半代甲十二匁

術曰十八斤を以て四斤半を割四十八匁を掛けて知る

評曰江戸少て綿十疋少付何十何兩と云ふあり但西国少り綿八一疋と云ふもの十二貫目入二本あり又大和少り綿八一疋と云ふもの九貫五百目入二本あり右の如く少て江戸引合を見よ

塩醬油酒水油之部

今歟少て塩一駄を銀十六匁少買時甲府まで駄賃一駄少付錢三百十二文拵時甲府少て大拵一升少付甲何程少當ると問但塩一駄八三俵又一俵八大拵一斗二升八錢相場七貫五百文少て

答曰甲府少て大拵一升甲五分

術曰 駮賃の三百十二文を置十二文斗九六少て割是ハ
四十八匁と掛け七貫五百文少て割 甲二匁と成ハ十六
匁を加へ實とく 別ハ一俵入一斗二升ハ三俵と掛け三
斗六升と成を法とく 以て實を割一升代五分を知
今一升少付銀八分の醬油五升の代り少一升少付銀一
匁六分の酒を取時ハ酒何程と同

答曰 酒二升五合

術曰 五升を置八分を掛け一匁六分少て割酒拵目を知

今水油甲一兩二斗四升替の時三升五合代銀何程と同

答曰 二升五合代甲七匁

術曰 四十八匁ハ三升五合を掛け二斗四升少て割知

今水油五升甲銀十匁少て買時ハ甲一兩相場何程と同

答曰 甲一兩相場二斗四升

術曰 五升を置四十八匁を掛け十匁少て割相場を知

今一升少付八分の上酒一斗五升有是ハ一升少付銀三分
の下酒を交せ合せ一升少付六分の中酒少て賣と時ハ
下酒何程交せて買とと同

答曰 下酒交拵一斗

術曰 上一升代の内中代を引金を上の拵數に掛け實と
して別ハ中代の内下の代を引金銀三分と成を以て實
を割下酒交拵一斗を得

許曰 江戸少ハ酒十駮少付何十何兩と云ハ但一駮ハ二樽一樽ハ
三斗五升入り又水油八十樽中何十何兩と云ハ但一樽

三斗七升五合入あり此の割りをめりて引合を見たり

諸色入交之部

今川西多葉粉四十斤有是と川東斤小直して何程と問但川西ハ

一斤二百目用ゆ川東ハ一斤百六十目用ゆ 答曰川東斤五十斤

術曰四十斤と置二百目と掛け百六十目と割知る

今茶八貫目一本を甲銀三十四文小買時一斤小付甲何程

と問但茶一斤ハ二百目也 答曰一斤小付甲八分五厘

術曰三十四文と二百文と掛け八貫目と割知る

今唐紙一本を甲百六十目と買時十六枚の代甲何程

と問但唐紙一本と云ハ二百枚入あり 答曰代甲十二文八分

術曰百六十文と十六枚を掛け二百枚と割知る

今薪甲一匁五分ふ十二把替の時八把の代銀何程と問

答曰八把代甲一匁

術曰一匁五分へ八把を掛け十二把と割代銀を知る

今炭甲一分小付五十五貫替の時二十七貫五百目の代銀

何程と問 答曰代甲六匁

術曰五十五貫を以て二十七貫五百目を割是ふ十二匁を

掛け代銀六匁を得る

今瓜七十八有瓜一ツふ茄子五ツは取積ゆて瓜の代

錢何程と問但茄子二ツ也代錢四文也

答曰瓜代錢八百十二文

術曰七十八と置五ツを掛け又四文を掛け二ツと割り

錢丁七百八十文と成七百文付九六文と割知る

利足勘定之部

今銀五貫目を年一割五分の利申て貸時此利銀何程と問 答曰利銀七百五十文

今金二十五兩有年一割五分の利申て貸時此利金何程と問 答曰利金三兩三步

術曰有る処の銀及金を置一割五分を掛け各を得る

今銀五貫目と年一割五分申て貸時此元利銀何程と問 答曰元利合銀五貫七百五十目

今金二十五兩を年一割五分申て貸時此元利金何程と問 答曰元利合金二十八兩三分

術曰一割五分を置元一を加一箇一分五厘と成と有る
処の銀及金を掛け各を得る

今銀五貫目を一ヶ年貸利銀七百五十目有此利幾割と問 答曰年利一割五分

今金二十五兩を一ヶ年貸利金三兩三分有此利幾割と問 答曰年利一割五分

術曰各利銀及利息を置貸銀及貸金と以割各利割知る
今一ヶ年一割五分申て貸利銀七百五十目有此元銀何

程と問 答曰元銀五貫目
今一ヶ年一割五分申て貸利金三兩三分有此元金何程

と問 答曰元金二十五兩

術曰一刻五分を以て利銀及利金を割各元銀及元金知る
今一ヶ年一刻五分ふ貸元利合銀五貫七百五十文有此元
銀何程と問 答曰元銀五貫目

今一ヶ年一刻五分に貸元利合金二十八兩三步有此元金
何程と問 答曰元金二十五兩

術曰一刻五分を置元一を加一箇一分五厘と成を以て
元利合と銀及金を割元銀及元金を得る

今一ヶ年一刻五分の利八月ふ何十兩ふ付一步の利の中
と問 答曰二十兩ふ付一步の利也

術曰定法三と置一刻五分ふと割て知る

評曰定法三者金一步の永二百五十文へ十二ヶ月を
掛けて知る

今金二十兩ふ付月一步の利八年幾割ふ中ると問

答曰年一刻五分

術曰定法三と置二十兩ふて割年利一刻五分を知る

今錢百文ふ付一ヶ月三文の利者何兩一步ふ中ると問

答曰八兩ふ付月一分の利也

術曰定法二十四と置三文ふて割八兩ふ付月一步と知る

評曰定法二十四者金一步の永二百五十文と置九十六
文を掛け定法二十四を得る

今文金一步ふ付銀四分の利八月何兩一步ふ中ると問

答曰九兩一步二朱ふ付月一步の利

術曰定法三七五と置四分ふと割り知る

評曰定法三七五者金一步の永二百五十文を置文金一步の
銀十五文を掛け定法三七五を知る

今甲金一步少付甲銀二分四厘の利八月何兩一步少付
と問 答曰十二兩二步少付月一步の利

術曰定法三と置二分四厘少て割り知る

評曰定法三者金一步の永二百五十文と置甲一步の銀十二文を掛け定法三を知る

今銀十文少付銀二分の利八月何兩少付月一步の利
と問 答曰十二兩二步少付月一步の利

術曰一步の永二百五十文と置十文を掛け二分少て
割り知る

今錢百文少付月三文の利八月何割少中ると問

答曰年利三割七分五釐

術曰十二ヶ月と置三文を掛け九十六文少て割知る

今文金一步少付月銀四分の利八月何割少中ると問

答曰年利三割二分

術曰十二ヶ月と置銀四分を掛け文金一步少の銀十
五文少て割年利三割二分を知る

今甲金一步少付月甲銀二分四厘の利八月何割少
中ると問 答曰年利二割四分

術曰十二ヶ月と置銀二分四厘を掛け甲一步少の銀
十二文少て割年利二割四分を知る

今銀十文少付月銀二分の利八月何割少中ると問
答曰年利二割四分

術曰十二ヶ月と置銀二分を掛け十文少て割知る

今年利一割五分少くして錢百文少付一ヶ月の利錢何程
と問 答曰錢百文少付一月の利錢一文二分

術曰一割五分を置定法八を掛け知る

評曰定法八者九十六文を置十二ヶ月少くして割り知る

今年利一割五分にして文金一兩少付一ヶ月の利銀何程
と問 答曰文金一兩少付一月利銀七分五厘

術曰一割五分を置定法五を掛け知る

評曰定法五者文金一兩の銀六十文を置十二ヶ月少くして割り定法五を知る

今年利一割五分少くして甲金一兩少付一ヶ月の利銀
何程と問 答曰甲金一兩少付一月利甲銀六分

術曰一割五分を置定法四を掛け知る

評曰定法四者甲金一兩の銀四十八文を置十二ヶ月

あて割り定法四を得るありむ定法を用ひて良きありあり
悪きありあり何れ時のよきに随ふ

今年金百兩を月二十兩少付金一步の利少くして貸時此利
金何程と問 答曰利金一兩一步

術曰一步永二百五十文を置百兩を掛け二十兩少くして割
利金一兩一步を得る

今年金百兩を一月貸利金一兩一步有月何兩一步少中
と問 答曰月二十兩少付一步の利也

術曰一步永二百五十文を置百兩を掛け金一兩一步の
永一貫二百五十文を以て割利割紙知る

今年銀二貫目を一割五分の利足りして三ヶ年の間利ふ
利を加へ貸時ハ此元利銀何程と問

答曰元利合銀三貫〇四十一匁七分五厘

術曰一割五分へ元一を加へ一箇一分五厘と成を二貫
貝へ三度掛け元利合銀を知る

今米五石を三年の間利ふ利を加へ初年八二割二年貝
一割五分三年貝一割と次第ふ利下げふ貸時此元利米
何程と問 答曰元利合米七石五斗九升

術曰二割と置元一を加へ一箇二分と成を甲とく是を
五匁掛け六石と成を初年の元利米とく甲の内五厘
引一箇一分五厘と成を乙とく是を六匁掛け六石九
斗と成を二年目の元利米とく又乙の内五厘引一
箇一分と成を六石九斗へ掛け三年目の元利米七石五

斗九升を得る

今金百兩を年一割五分の利足めして一年十一月十
二日貸時此利金何程と問

答曰利金二十九兩一分

術曰一年十一月十二日と置此十二日斗を三十日とく
割一年十一月四分と成を此十一月四分斗を十二ヶ
月とく割一年九分五厘と成へ百兩を掛け又一割
五分を掛け利金二十九兩一步を得る

今金百兩を月二十兩と付一步の利足めして十五日
貸時此利金何程と問

答曰利金二步二朱

術曰金一步の永二百五十文と墨百兩を掛け又十五日を掛け實とく別ふ一ヶ月の日数三十日を墨二十兩を掛け法とく以て實を割利金を得る

今利足二割ありて利ふ利を加へ貸事二年然るも初年の暮ふ七十二兩取又二年目の暮七十二兩取て皆濟也
元金何程と問 答曰元金百十兩

術曰二割を置元一を加へ一ケ二分と成を子と名づけ是を掛け合せ一ケ四四と成を法とく別ふ七十二兩へ子を掛け八十六ケ四と成へ七十二兩を加へ百五十八ケ四と成を法を以て割元金を得る

今利足二割ありて金百十兩を利ふ利を加へ貸事

二年初年暮二年目暮二度ふ等分ふ取て皆濟也其等濟金何程と問 答曰等濟金七十二兩宛

術曰二割を置元一を加へ一ケ二分と成を子とく是ふ一ケを加へ二ケ二分と成を以て子幕ふ因元金を割等濟金七十二兩を得る

今利足二割ありて金四百兩を利ふ利を加へ貸事二年初年暮百兩取る二年目の暮ふ何程取て皆濟と問

答曰二年目暮金四百五十六兩取皆濟

術曰二割を置元一を加へ一ケ二分と成を子とく是ふ元金四百兩を掛け内初年ふ取る百兩を引余りふ子を掛け二年目の取金四百五十六兩を得る

材木之部

今二間の尺五ふ九寸の平物を尺角小廻して何程と問

答曰尺角一本三分五釐

術曰一尺五寸と墨九寸を掛け尺角を知る

今長三間の尺五を二間の尺角小廻して尺角何程と問

答曰二間尺角二本三分七釐五毛

術曰一尺五寸を掛け合せ是ふ三間を掛け二間を以て
割り二間の尺角を知る

今長九尺の三寸角四百本有金一両少付長二間の
尺角六本七分五釐替め此代金何程と問

答曰代金四兩

術曰三寸を掛け合せ是ふ九尺を掛け六尺少く割り
一三五と成を二間あて割り尺角六分七厘五毛と成て四
百本を掛け尺角二十七本と成を金一兩の相場六本
七分五厘を以て割代金四兩を得る

評曰江戸少付金一兩少付二間の尺角何十何本替
と云ふ故に二間の尺角小廻して后一兩の相場あて
割代金を得る又板八兩何十何間と云ふ當国少付
二間の尺角一本少付何十何本と云ふ又板八金一歩
何十何枚と云ふ故に江戸引合を見ざるに
在當国の仕方ハ次ハ記す

今二間の尺角一本少付銀十六匁替ふして三間の
五寸角一本の代銀何程と問

答曰五寸角代六匁

術曰五寸を掛け合せ又三間を掛け二間少て割是ふ

十六枚を掛け五寸角の代銀を得る
今二間の三寸角四百本の代りふ二間の四寸角を取
る時八四寸角何程と問

答曰四寸角二百二十五本

術曰三寸を掛け合せ又四百本を掛け實とて別ふ
四寸を掛け合せ以て實を割四寸角を知る

今未のあくと差渡一尺四寸一分四厘二毛有九本
角少する時八角面何程と問

答曰角面一尺

術曰定法一箇四一四二を以差渡一を割角面を知る
今周り七尺八寸五分の九本の差渡一何程と問

答曰差渡一尺二寸五分

術曰定法三箇一四を以て周り割差渡一を知る
今差渡一尺二寸五分有九本者周り何程と問

答曰周り七尺八寸五分

術曰差渡一尺二寸五分を以定法三箇一四を掛け知る
今差渡一尺有九本を三角ふする時八角面何程と問

答曰三角面八寸六分六厘

術曰差渡一尺を以定法八分六厘六を掛け知る
今四分板二十五間有是を外二割五分引おして六分
板と取り替る時八角板何程と問

答曰六分板二十間

術曰二割五分を置元一を加一箇二分五厘と成を以て二十五間を割六分極二十間を得る

的矢數分割之部

今矢數百二十五本の内中り矢百本何分の中りと同

答曰八分の中り也

術曰百二十五本を以て百本を割八分を知る

今的小中ル矢百本八分の中りありて總矢數何程と問

答曰總矢數百二十五本

術曰八分を以て百本を割總矢數を知る

算鑑童蒙知津卷之天畢

